

# 外国語科学習指導案

日時 令和3年6月4日（金） 第2校時  
対象 3年2組 36人  
指導者 教諭 山口 祐介

## 1 単元名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 PROGRAM 3 A Hot Sport Today

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、登場人物の真央とダニエルのやり取りを通して、スポーツがもつ魅力やその歴史について学ぶ内容となっている。教科書本文では、生徒にとって身近なスポーツであるバスケットボールが題材として扱われており、日本のB.LEAGUEとアメリカのNBAの違い、その誕生の歴史等の情報が述べられている。教科書本文の内容理解を通して、それぞれのスポーツがもつ魅力やその背景について調べたり、考えや意見を伝え合ったりすることで、スポーツについてより深く理解することができる。また、登場人物の二人のやり取りから、スポーツがもつ魅力や日本と海外との違いについて考えることは、スポーツの新しい側面や今まで知らなかったことを理解することにつながり、生徒の興味や関心を引くものとして適した題材であると考えられる。

言語材料としては、<call+人(モノ)+名詞>「人(モノ)を〜と呼ぶ」、<make+人(モノ)+形容詞(動詞)>「人(モノ)を(に)〜させる」が扱われている。これらの表現を活用することで、自分の興味のある事柄について分かりやすく相手に伝えたり、自分や社会にとっての意義を表現したりする言語活動を行うことができる単元である。

#### (2) 生徒観

本学級は、明るく、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒が多く、言語活動においても既習の学習内容を用いながら、自分の考えや気持ちなどを伝えようとする姿が見られる。しかし、本単元前に行った実態調査の結果からは、半数以上の生徒が「英語を話すこと」に対して苦手意識をもっていることが分かった（図1）。高い意欲をもって学習に取り組む生徒が多い中で、言語活動に苦手意識をもつ生徒も少なくはなく、英語で自分の考えや意見を交換・伝達しようとする力の育成が不十分であることが分かった。

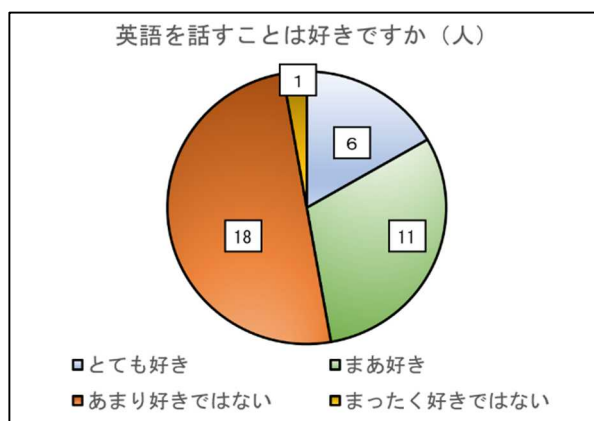
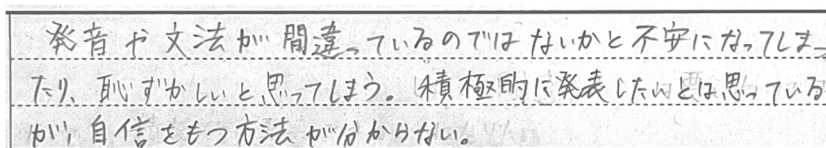


図1 実態調査の結果

また、実態調査の「自分の考えを英語で表現することに自信はありますか、どのようにすれば自信がもてるとおもいますか」という記述回答式の質問に対して「いいえ」と回答した生徒の理由とし

て「(自分の英語が)間違っているかもしれない」「文法や単語が正しいか不安である」という回答が多く見られた(写真1)。しかし、「英語での会



発音や文法が間違っているのではないかと不安になってしまったり、恥ずかしいと思ってほう。積極的に発表したいとは思っているが、自信をもつ方法が分からない。

写真1 実態調査の質問に対する生徒の記述回答

話をたくさんして、英語で話すことに慣れていけば少しずつ自信がもてると思う」や「日頃から英語で表現して経験を積むことが大切だと思う」といった意見も見られ、英語を話すことに苦手意識をもつ生徒に自信をもたせられるような活動の工夫が必要だと考えられる。

### (3) 指導観

本単元では、生徒にとって身近な事柄であるスポーツを題材として扱い、本校と交流のある台湾の実習生と親交を深めることを目的として large task を「F-1 グランプリの新競技を提案しよう!」と設定する。教科書本文の内容を参考にしながら、生徒が台湾の実習生との交流会(F-1 グランプリ)で実施可能な競技を考え、その目的や魅力等についての意見や考えをまとめることで、他者に配慮したコミュニケーションを図ろうとする態度を育む授業を展開していく。

第1時においては、単元構成シートを用いて、前単元からのつながりを踏まえて、自己課題を設定させる。その後、交流会(F-1 グランプリ)の実施に向けての目的や状況等を具体的に提示しながら、生徒とのやり取りを通して large task を設定する。英語を使用するためのオーセンティックな場面設定を行うことで、主体的に large task に向かうための動機付けを行いたい。

第2時以降は、新出語句や文法に慣れさせ、それらを用いて、自分の考えや意見を相手に伝えられるように指導する。また、言語活動においては、自分たちが考えた新競技の目的や魅力等をどうすれば相手によりよく伝えられるかといった表現の工夫を考えさせながら、コミュニケーション活動に取り組ませたい。そのために、教科書本文の内容を large task へと活用させるためにメモ・要約の活動の充実を図る。活動を通して、生徒に教科書本文の内容をどのように large task へと生かしていくかを考えさせることで、自己の学習を調整することにつながると考える。

また、第6時の large task では、台湾と Web 会議システムでつなぎ、生徒が交流会(F-1 グランプリ)で実施したい競技を提案し、相手から提案内容に関する意見等をもらう。そうすることで、単元を通した自身の取組の成果と課題を認識させる。今回の発表で何ができて、何に気をつけなければいけなかったかを理解させ、生徒が自ら学習を調整していくことで、主体的に学習に取り組む態度の育成につながると考える。

単元末では、単元構成シートを活用し、単元の始まりに自分が立てた自己課題の解決に向けて、自分がどのように取り組み、単元を通して何が理解できたのかを十分に振り返る時間を設けたい。large task に向けて、周りとは協力しながら、粘り強く取り組み、学習を調整してきた姿を振り返らせることで、今後の学習へと生かし、新たな課題を見いだす生徒の育成につなげたいと考える。

### 3 単元の計画

(1) large task 「F-1グランプリの新競技を提案しよう！」

(2) 単元の目標（話すこと〔発表〕）

本校と交流がある台湾の実習生と親交を深めるために、交流会（F-1グランプリ）で実施できる新競技を提案する活動を通して、日常的な話題や社会的な話題についての教科書本文の概要を捉え、自分たちが提案したい新競技の魅力や考案の理由を、他者に配慮しながら、分かりやすく相手に伝わるように発表することができる。

(3) large task で活用させたい主な言語材料

言語の働き	学年・単元	教科書での表現
発表する	2年 P1-①	I'm going to go to the concert this weekend.
説明する	3年 P3-①	Please call me Alex.
意見を言う	3年 P3-②	The warm weather makes you sleepy.
感想を述べる	1年 P5-③	We enjoyed dancing there.
理由を述べる	2年 P2-②	We must pick it up.
提案する	2年 P1-③	If you are free today, can you come to our concert?

(4) large task における活用例

<p><b>Magical Fuzoku Power</b></p> <p>We're going to introduce a new game. If you are not good at any sports, how about playing a quiz game? We call it "Magical Fuzoku power"! This game must be fun! The rule is so simple. We just need more than two people. The first speaker says a keyword with music and rhythm. And then, the next speaker says a word relating to the first one. For example, the first speaker says "banana." And then, the next speaker says "yellow." Do you understand? We often enjoy playing this game.</p> <p>We think this game will make you excited! Have fun with us!</p>
--

(5) 単元の評価規準

領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 〔発表〕	<p>〔知識〕 call+人(モノ)+名詞, make+人(モノ)+形容詞(動詞)について理解している。</p> <p>〔技能〕 call+人(モノ)+名詞, make+人(モノ)+形容詞(動詞)について理解し、台湾の実習生との交流会で実施できる新競技について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとまりのある内容で話す技能を身に付けている。</p>	<p>本校と交流がある台湾の実習生と親交を深めるために、交流会で実施できる新競技について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとまりのある内容で話している。</p>	<p>本校と交流がある台湾の実習生と親交を深めるために、交流会で実施できる新競技について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとまりのある内容で話そうとしている。</p>

(6) 単元の評価

<large task の三つの条件>

- ① 交流会で実施できる新競技と提案の理由を述べている。
- ② 交流会で実施できる新競技を行った経験を述べている。
- ③ 交流会で実施できる新競技の楽しさを述べている。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	自分の考えを詳しく述べたり、これまで学んだ発表方法を効果的に活用したりしながら、三つの条件を満たして発表している。	自分の考えを詳しく述べたり、これまで学んだ発表方法を効果的に活用したりしながら、三つの条件を満たして発表しようとしている。
b	誤りが一部あるが、発表に支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	三つの条件を満たして発表している。	三つの条件を満たして発表しようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。 ※ 「b」を満たしていない」状況(c)を判断した場合、large taskや学習の見通しについて再度確認するように指導する。	「b」を満たしていない。 ※ 「b」を満たしていない」状況(c)を判断した場合、large taskや学習の見通しについて再度確認するように指導する。

(7) 資質・能力についての関連図

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
学校教育目標を三つの柱で整理した資質・能力	<u>物事の本質を深く追究したり、よりよく自己を生かして協働したりするための知識・技能</u> を身に付けるようにする。	目的に向かって知識・技能を効果的に活用し、 <u>よりよいものをつくり上げるための必要能力</u> を養う。	<u>自分と他者の理解を深め、よりよいものをつくり上げ、豊かな自尊感情並びに他者を大切にする深い感情を育み、社会に積極的に参画していく態度</u> を養う。
本校外国語科の目標	<u>外国語の特徴・きまり・働きを理解し、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能</u> を身に付けるようにする。	<u>目的や場面、状況等に応じて、外国語の情報を選択したり、抽出したりして、よりよい意見や考えを、実際に外国語で表現する力</u> を養う。	<u>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度</u> を養う。
本単元の目標	<u>本校と交流がある台湾の実習生と親交を深めるために、交流会（F-1グランプリ）で実施できる新競技を提案する活動を通して、日常的な話題や社会的な話題についての教科書本文の概要を捉え、自分たちが提案したい新競技の魅力や考案の理由を、他者に配慮しながら、分かりやすく相手に伝わるように発表することができる。</u>		
	FHR（外部人材）の活用，メモ・要約指導，単元構成シートの活用		
本時の目標	<u>本校と交流のある台湾の実習生との交流会（F-1グランプリ）で行う新競技の提案をするために、グループで紹介する内容の再確認を行い、相手によりよく自分の考えや意見を伝えるための内容や表現の工夫について考え、新競技について相手に提案することができる。</u>		

(8) 指導と評価の計画（太枠は本時）

時間	ねらい（■），言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1	<b>■</b> [F-1グランプリの新競技を提案しよう！] ① Program3のスキーマの形成と自己課題の設定をする。 ② large taskの設定をする。 ③ 単元構成シートに基づいて身に付けるべき力等の把握と家庭で取り組む課題の確認をする。 ④ large taskに対する自分の考えを形成する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>large taskの解決に向けた、場面設定</li> </ul>
2	<b>■</b> [新競技を紹介しよう！] ① call+人(モノ)+名詞を用いた文構造の形、意味、機能の理解と表現練習をする。 ② Section1の内容理解と音読練習をする。 ③ large taskの原稿作成をする。				<ul style="list-style-type: none"> <li>メモ・要約活動を通じた、large taskで活用できる表現の確認</li> <li>終末場面での単元構成シートを用いた、large taskの解決に向けたプランニング</li> </ul>
3	<b>■</b> [新競技を行う理由を伝えよう！] ① make+人(モノ)+形容詞を用いた文構造の形、意味、機能の理解と表現練習をする。 ② Section2の内容理解と音読練習をする。 ③ large taskの原稿作成をする。				
4	<b>■</b> [新競技を詳しく伝えよう！] ① make+人(モノ)+動詞を用いた文構造の形、意味、機能の理解と表現練習をする。 ② Section3の内容理解と音読練習をする。 ③ large taskの原稿作成をする。				
5	<b>■</b> [新競技を友だちに紹介して、楽しもう！] ① 新競技の発表練習をして、実施可能かを検証する。 ② 原稿への加味・修正を行う。	○	○	○	
6	<b>■</b> [F-1グランプリの新競技を提案しよう！] ① 新競技の提案の発表をする。 ② 自分たちが提案した新競技への質疑応答を行う。		○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表を通じた、成果と課題の認識</li> </ul>
7	<b>■</b> [F-1グランプリの新競技の提案の振り返りをしよう！] ① 単元構成シートの記入をする。 ② 自己課題への評価と次の自己課題の確認をする。		○	○	
後日	ペーパーテスト	○	○	○	

4 本時の計画

(1) 本時の目標

「F-1グランプリの新競技を提案しよう！」

(2) 指導の重点

話すこと [発表]

(3) 本時の目標行動

導入時の教師とのやり取りを通して、本単元の学習内容を振り返り、交流会（F-1グランプリ）での新競技の発表内容や発表の仕方について確認を行う。その後、台湾の実習生と Web 会議システムでつなぎ、新競技の提案を行う。発表後は、自分たちの提案内容に関する意見等をメモし、自分たちの発表の成果と課題を認識する。今回の発表を通して、何ができて、今後何が必要なのかをメモを活用して客観的に把握することで、新たな課題を見だし、学習を調整する姿勢をもつ。

(4) 本時の指導目標（話すこと [発表]）

本校と交流がある台湾の実習生と親交を深めるために、交流会（F-1グランプリ）で実施できる新競技を提案する活動を通して、自分たちが提案したい新競技の魅力や考案の理由を、他者に配慮しながら、分かりやすく相手に伝わるように発表することができる。

## (5) 本時の評価

<large task の三つの条件>

- ① 交流会で実施できる新競技と提案の理由を述べている。
- ② 交流会で実施できる新競技を行った経験を述べている。
- ③ 交流会で実施できる新競技の楽しさを述べている。

評価	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	自分の考えを詳しく述べたり、これまで学んだ発表方法を効果的に活用したりしながら、三つの条件を満たして発表している。	自分の考えを詳しく述べたり、これまで学んだ発表方法を効果的に活用したりしながら、三つの条件を満たして発表しようとしている。
b	三つの条件を満たして台湾の実習生に発表している。	三つの条件を満たして台湾の実習生に発表しようとしている。
c	「b」を満たしていない。 ※ 「『b』を満たしていない」状況(c)を判断した場合、large task や学習の見通しについて再度確認するように指導する。	「b」を満たしていない。 ※ 「『b』を満たしていない」状況(c)を判断した場合、large task や学習の見通しについて再度確認するように指導する。

## (6) 授業設計の工夫

- ① 「リソースの視点を取り入れた価値を見つけ・生み出す活動」の工夫

本時では、large task である「F-1 グランプリの新競技を提案しよう！」に取り組むために、本校と交流のある台湾の実習生と Web 会議システムを用いて生徒が提案したい新競技の発表をさせる。新競技のルールや方法をただ紹介するだけではなく、その魅力が相手にどうすれば分かりやすく伝わるかを考えさせながら、紹介の内容や表現の工夫をさせたい。large task では、実際に台湾の実習生に発表をする活動を通して、提案内容に関する意見等をもらい、これまでの学習の成果と課題を認識させることで、新たな課題を見いだすことへとつなげたい。そのために、台湾の実習生と事前に評価のポイントやアドバイスの視点を共有する。

- ② 「プロセスの視点を取り入れた思考・吟味する活動」の工夫

生徒は単元の学習を通して、単元構成シートを活用し、自己課題の設定や large task の解決に向けた取組を進めてきており、自分たちが紹介したい新競技の内容が相手に分かりやすく、よりよいものになるように改良を重ねてきている。本時においては、実際に台湾の実習生へ新競技を提案する活動を通して、これまでの自己課題や発表の際の大切なポイントを踏まえながら、紹介したい新競技を伝えることができたか、今後どのような工夫が必要であるかを考えさせる。その内容を、単元構成シートにまとめさせることで、単元全体の振り返りを充実させる。

(7) 本時の実際

区分	時間	生徒の活動	指導上の留意点 ◆評価 □補説
導入	5	1 教師とやり取りをしながら、前時の学習を振り返る。	・ 単元の学習内容を振り返らせながら、本時の学習に関するやり取りを行う。
展開	40	2 本時のタスクを確認する。	
		<b>F-1 グランプリの新競技を提案しよう！</b>	
		3 新競技の発表のポイントを確認する。	・ スライドを用いて、発表のポイントを示し、共通理解させる。
		4 グループ間で新競技の提案の発表練習をする。	・ 相互確認を行わせ、アドバイスを受けたり、相手からの質問に即興で答えたりする練習をさせる。
		5 Web 会議システムを使って、台湾の実習生（3名）とつなぎ、発表を行う。	・ 発表に向けてオーセンティックな場面設定を行うことで、発表に主体的に向かわせるための動機付けを行う。 <b>(教科論 4(1)ウ)</b>
		(1) 発表の流れを確認する。	・ 発表後は台湾の実習生からの内容に関する意見等をメモすることを確認する。
		(2) 最初のグループが新競技の提案の発表をする。	・ 生徒の発表の様子を観察し、必要に応じて支援する。
		(3) 発表後に台湾の実習生からの質問に即興で答えたり、内容に関する意見等をメモしたりする。	・ 質問や内容に関する意見等をメモさせる。内容が聞き取れなかった場合は、再度確認させたり、必要に応じて支援したりする。
		(4) 台湾の実習生からの質問や内容に関する意見等をグループ内で共有する。	◆ 発表後にメモをまとめ、自分たちの発表を振り返りながら、学習を調整することができたか。 □ メモを基に、どのような工夫をすれば、よりよい発表になったかを考えさせる。
		6 各グループへの台湾の実習生からの意見や質問を基に、相手に伝わりやすいよりよい発表について考え、全体で共有する。	・ これまでの取組への振り返りを全体で行うことで、よりよい発表のための工夫や今後の学習への新たな課題を見いださせる。
終末	5	7 本時で学習した表現を振り返りながら学習のまとめを行う。	・ 単元構成シートを活用して、自己課題に近づけたかを振り返らせる。 <b>(教科論 4(1)イ)</b>
		8 次時について確認する。	・ 次時の見通しをもたせる。